

吸実性カメムシ類による被害の発生を防ぐために 適期防除を実施しましょう！

1 作物名 大豆

2 発生現況

- (1) 巡回調査(見取り調査)の結果、吸実性カメムシ類(ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒゲカメムシ等)の発生地点率は、平年より高く、過去10か年で最も高かった(図1)。また、寄生虫数も、平年よりかなり多く、過去10か年で最も多かった(図2)。特に、ホソヘリカメムシが多くのは場で確認された。
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温が平年より高いと予報されているため多発生が懸念される。

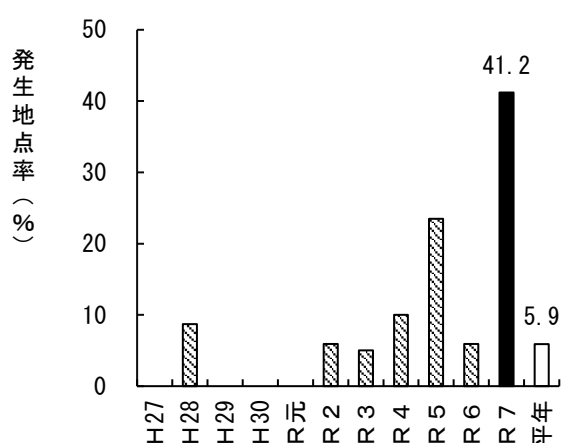


図1 吸実性カメムシ類の発生地点率(調査地点17ほ場)(巡回調査: 7/23~25、28)

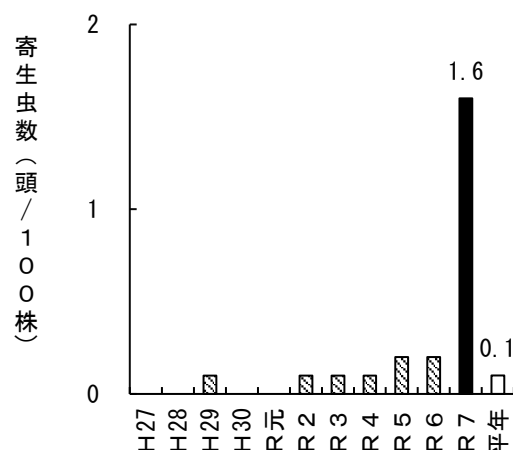


図2 吸実性カメムシ類の寄生虫数(巡回調査: 7/23~25、28)



ホソヘリカメムシ



イチモンジカメムシ



ブチヒゲカメムシ

写真1 大豆を加害する主要なカメムシ

3 防除のポイント

(1) 発生生態と被害

- 大豆の吸実性カメムシ類には、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒゲカメムシ、アオクサカメムシ及びクサギカメムシ等がいる。いずれも莢が着き始める頃から莢が黄熟する頃までの莢内の子実を加害する。被害の程度は加害時期における莢と子実の発育程度でかなり異なる。
- 越冬地(雑草地、山林等)付近で発生が多くなる恐れがあるので注意する。
- 古川農業試験場作況試験(5/25 播種)における大豆の開花期は、タンレイ 7/18、ミヤギシロメ 7/25 であり、タンレイ、ミヤギシロメともに平年より4日早いため、防除時期を逸しないよう生育状況を確認する。

(2) 防除対策

- 吸害性カメムシ類は、莢が着き始めてからほ場へ飛来し吸汁加害を始め、被害は莢が若い時期ほど大きい。防除は着莢期から子実肥大中期を重点に2回実施する。なお、散布後も、ほ場に吸実性カメムシ類が確認される場合は、追加防除を検討する。
- 薬剤散布の際は、大豆の莢に十分薬剤がかかるように散布する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム